

再び天上での対話：サタンの執拗な攻撃（1～5節）

ヨブ記2:4 サタンは【主】に答えた。「皮の代わりは、皮をもってします。自分のいのちの代わりには、人は財産すべてを与えるものです。5しかし、手を伸ばして、彼の骨と肉を打つてみてください。彼はきっと、面と向かってあなたを呪うに違いありません。」

人は自分のいのちを守るためであるなら、財産でも身内の者でも犠牲にする。サタンは、ヨブの中に隠されている反神的な思いを暴露するために、ヨブの身に直接触れることを求める。（新聖書注解 ヨブ記 p.44）

サタンの動機は何か？・・・

要は、サタンは主とヨブとの間にある愛の関係に対してねたみ、敵対している。ねたみには理にかなった根拠がありません。その目的はただ、かき乱し、滅ぼし、食い尽くすことにあります。http://www.logos-ministries.org/old_b/job1-2.html

- 「妬み」の持つ破壊的力！人は妬みにかられると理不尽な行動に出る。
- Cf. ダビデに嫉妬したサウロ。

神は再び許可を与えられた（6節）

ヨブ記2:6 【主】はサタンに言われた。「では、彼をおまえの手に任せろ。ただ、彼のいのちには触れるな。」

神の

1ヨハネ4:4・・・あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。

1ヨハネ5:18・・・神から生まれた方が彼を守ってくださるので、悪い者は彼に触れることができないのです。

ヨブから健康が奪われる！（7節～）

ヨブ記2:7 サタンは【主】の前から出て行き、ヨブを足の裏から頭の頂まで、悪性の腫物で打った。8ヨブは土器のかげらを取り、それだからだを引っかいた。彼は灰の中に座っていた。

妻からの誘惑（9節）

ヨブ記2:9すると、妻が彼に言った。「あなたは、これでもなお、自分の誠実さを堅く保とうとしているのですか。神を呪って死になさい。」

〈神をのろって〉はサタンがヨブについて主に宣言した（2:5）ことである。つまり、サタンは妻の口を通して、ヨブを誘惑し、主の言葉に挑戦したのである。信仰を失った妻は、無意識のうちにサタンの道具となっていた。一番信頼していた妻からのこのような言葉は、ヨブにとって最も手痛い打撃であったに違いない。（実用聖書注解）

ギリギリで信仰に踏みとどまるヨブ（10節～）

ヨブ記2:10しかし、彼は妻に言った。「あなたは、どこかの愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざ受けるべきではないか。」ヨブはこのすべてのことにおいても、唇によって罪に陥ることはなかった。

この短い言葉の付加は、ヨブの忍耐が限界に来ていることを暗示している。タルグムは、あからさまに、「しかしその心の中ではすでに罪深い言葉を抱いていた」という句を付け加えている。（新聖書注解 ヨブ記 p.45）

詩篇39:1 私は言った。私は自分の道に気をつけよう。私が舌で罪を犯さないように。口に口輪をはめておこう。悪しき者が私の前にいる間は。2 私はひたすら黙っていた。良いことにさえ沈黙した。そのため私の痛みは激しくなった。

実はヨブだけではない！

祈りが聞かれないとき

2コリント12:7～8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。9しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。

友、遠方より来る？ 善意の友人たちだが、、（11～12節）

友人たちの来訪と共に、サタンはどこへともなく姿を消すが、サタンの試みが終わったわけではない。最初の試練はヨブの周りのものをはぎとり、第2の試練は肉体と人間的な頼みをはぎとったが、友人たちとの対話は、信仰的確信をはぎとろうとしていた。それはヨブにとって第3の試練と言えるものであり、しかも最も厳しい試練であった。もっとも彼らは純粋にヨブのためを思っていたのであるが、知らずして、サタンの道具となっていた。（実用聖書注解）

ヨブ記2:11 さて、ヨブの三人の友が、ヨブに降りかかったこれらすべてのわざわいのことを聞き、それぞれ自分のところから訪ねて来た。すなわち、テマン人エリファズ、シュアハ人ビルダデ、ナアマ人ツォファルである。彼らはヨブに同情し、慰めようと、互いに打ち合わせて来た。

悲しむ人への最善の対処法（13節）

ヨブ記2:13 彼らは彼とともに七日七夜、地に座っていたが、だれも一言も彼に話しかけなかった。彼の痛みが非常に大きいを見たからである。

恐らく黙ってそばにいるのが彼らが出来た最善のことだった。（実用聖書注解）

ローマ書12:15 喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。